

3学年 学年通信 NO.3



★ 学年の先生から 2 ★

1号に引き続き、学年の先生方から一言いただきました。今回は、1年生の時から担当していただいている2人の先生方です。

2組 担任	先生
<p>3年目になりました。改めて、よろしくお願ひします。皆さんにとって中学校生活最後の1年を一緒に過ごせることを、とてもうれしく思います。今年度の私のテーマは「全力」です。この1年間、皆さんと全力で向き合い、支えていきます。学校生活も、行事も、受験も、ちばっていきましょう!</p>	

4組 担任	先生
<p>あっという間に3年生ですね。先日の対面式では、大きく成長した姿が印象的でした。でも、まだまだ成長できる部分はあると思います。何事も現状に満足せず、ともに頑張りましょう! 1日1日を大切に、コツコツ積み上げていきましょう。</p> <p style="text-align: center;">“ ただの努力は裏切るが、 正しい努力は裏切らない”</p>	



★ 決意も新たに…、スタート! ★

「光陰矢の如し」ということわざがありますが、気づけば深川第四中学校の3年としての生活も2週間が過ぎようとしています。生徒会オリエンテーションも無事終え、みんなの最上級生(最上級生)としての自覚とやる気がひしひしと感じられました。またクラスでは、クラス目標、係・委員会も決まり、専門委員会や中央委員会での活躍も頼もしくなってきました。

来週は、全国学力・学習状況調査(22日:英語質問調査、23日:国語・数学)が行われます。義務教育最後の年、皆さんはどのように成長していくのでしょうか。成長するのでしょうか。楽しみです。

ここで、皆さん書いてもらった作文を紹介したいと思います。

将来の自分のために 3組生徒

私は、1年前の自分の期待に応えることができなかった。私は、1年前の春休み中、自分自身に期待をこめたとある目標を立てた。それは、英語力を向上させることだった。なぜなら、私はアメリカという英語圏の国へ引っ越すことになっていたからだ。具体的な内容としては、ネイティブの先生や生徒と難なくコミュニケーションをとることができるくらい、発音や会話のリズムをつくる力を向上させるということだった。

そして、ついに迎えた出国当日。私は、親しかった友人との別れに寂しさを感じながらも、文化や歴史も異なる太平洋を超えた異国の地に期待の念を抱いていた。飛行中、現地での生活をイメージしながら、英語を順調に上達させていく自分がいた。

しかし、現実はそのような淡い期待を打ち砕き、自分を焦らせた。まず、アメリカにいる人の大多数は、自分の気持ちを相手に伝えようとしない。これは、偏見かもしれないが、現地の中学生に聞いてみたところ、実際にその中学生も聞きとれない場合があるということだった。しかし、よく考えてみると発音の問題なのかもしれないと考えた。アメリカには、様々な人種の間がある。そのため、母国語と英語の発音が混ざってしまったことで自分やその中学生は、相手の気持ちを汲み取ることができなかったのではないかと考えた。

また他にも私にとって困る点はたくさんあるが、特に困ったことは、やはり話すスピードが早すぎることだ。英語を母国語としない私にとっては、ネイティブの普通のレベルが、音速のように、聞こえてしまった。少し大袈裟かもしれないが、本当に英語初心者として全く分からないものだった。これが、アメリカ生活における最大の壁だった。聞き取れないと返事もできない。だからこそ、私は日本ではほとんど行かなかったスーパーにも行き、たくさん英語に触れる機会を設けた。その結果、英語を聞き取る力は、自分でも驚くくらい成長した。ただ、発音は1年ではマスターすることができなかった。

このアメリカ生活を通して学んだことは、英語力向上に限らず異国の地ならではの文化を学んだことについても言えるだろう。1年前の自分の期待に添った結果とはならなかったものの、確実にたくさんの収穫があったことから、アメリカ生活は成功したと言っているかもしれない。この1年は、将来の自分にとってかけがいのない財産となると思う。将来のためにも、3年生は英語に絞らず、他の分野にも積極的に視野を広げ、新たな発見や力をつけていこうと考えた。また、多角的な視点を身につけることで、物事を様々な方向から判断し、行動していきたいと思う。

